

身近な薬のスペシャリスト 「薬局薬剤師」

薬だけじゃない、地域の健康の専門家です。

薬局機能をフル活用し、
多職種と情報を共有・協働して、
地域住民の健康・医療に
貢献します！



＼ 薬局薬剤師ってこんなお仕事です！ /

- ①街の薬屋さん機能…一般用医薬品（OTC）などの販売だけでなく、健康相談などの予防対策も行っています。
- ②処方箋調剤…処方箋のチェックをしながら、医療用医薬品を調剤します。服薬指導やアドヒアランスの確認なども行います。
- ③訪問薬剤管理指導・居宅療養管理指導…自宅療養している方の家に訪問し、服薬指導などを行います。多職種が集まる地域ケア会議、退院時カンファレンス、サービス担当者会議にも出席することもあります。
- ④学校薬剤師、災害対策など…学校薬剤師として、校内の環境を整える、保健室や理科教室の薬剤管理、フッ化物洗口などの管理、アンチドーピングの指導などを行います。地域の健康教室や市民公開講座などに呼ばれて、肝疾患を含む様々な病気の話を行います。災害対策やスポーツ薬剤師として活躍している人もいます。



私たちは患者さんの身近にいて、健康を支える職種と認識されることを目指しています！

薬局薬剤師の肝Co 活動事例



はじめての
第一歩!

なんでもご相談ください！の声かけ



薬局薬剤師は調剤から服薬支援や生活支援（飲酒、喫煙、栄養、運動など）まで関わるができます。このときに「なんでも相談してくださいね」という声かけをすることが肝Co活動のきっかけになります！

「お薬飲まれているから安定していますね」

定期検査の結果が安定している方には、モチベーションを上げる声かけをしています。



「連続して忘れないようにしてくださいね」

長期間にわたり服薬している患者さんは、ストレスや不安を抱えており、一時的に内服を中止してしまう方もいらっしゃいます。患者さんの様子を見ながら声かけ方法を考えます。患者さんも薬を飲まないといけないことは理解されているので、伝え方を配慮しましょう。

「健診や肝炎ウイルス検査を受けていますか？」

比較的、健康診断をおろそかにしがちな若い世代に呼びかけをしています。肝炎ウイルス検査の受検を勧めることもできます。



ちょっとしたことでも相談できる
薬局薬剤師の存在は大きい！



患者さんから、病院での診察の際に医師に尋ね忘れた内容について質問される事が多くあります。薬局薬剤師になんでもご相談ください、と伝えると喜ばれますよ！

薬局薬剤師の肝Co 活動事例

薬局薬剤師の強みを活かしましょう！

ホップ★

なぜ患者さんが服薬できないのか、その理由を知る

B型肝炎の薬は長期間に服用しなければなりませんし、C型肝炎の薬は、効果を得るために自己中断がないようにする必要があります。かかりつけ薬剤師は、患者さんとコミュニケーションをとり、きちんと服薬できているかを聞き取り、もし飲み忘れなどがあればきちんと理由を知った上で、それに対してアドバイスすることができます。処方薬以外の薬とあわせて管理できるのも、かかりつけ薬剤師の強みですね！



つい飲むのを
忘れがちで…

一緒に考えて
みましょう！



ステップ★★

肝炎ウイルス検査やFIB-4 indexなどの肝疾患に関わる情報を周知する

拠点病院や県の肝疾患の取り組みを広く周知する場として薬局を活用しましょう。
(ポスターの掲示など)

定期検査のフォロー

電子カルテやお薬手帳を参照したり、患者さんとの会話の中から、ウイルス性肝炎の治療歴がある人には、フォローアップ(定期検査)ができていないかを確認しましょう。

ジャンプ★★★★

肝がん・重度肝硬変患者さんへの関わり

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業による治療費助成制度が開始となり、薬局でも制度利用に関して重要な役割があります。また、自宅に帰られてから肝がんに関する内服薬の副作用などに悩む患者さんがいます。そのような方に対して、電話で内服状況や副作用を把握する「テレフォンフォローアップ」等の活動も始まっています。患者さんを薬剤師がフォローアップして主治医に報告することで安全な治療の継続につながることはもちろん、薬局と病院の連携も深まります。



こんな
活動も！

県・拠点病院と薬剤師会の連携

糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが高いにも関わらず腹部超音波検査を受けたことがない人が少なくありません。県や拠点病院と薬剤師会が連携し、世界糖尿病デーに合わせて、糖尿病薬を内服している患者さん向けに、腹部超音波検査を勧める啓発活動をしている県もあります。このような活動も薬局薬剤師の肝Coだからできる重要な活動ですね。



先輩肝Coからのアドバイス

肝Coの研修を受けることは、患者さんだけでなく、医療者に対しても**薬剤師としての信頼を高めること**にもつながります！

✓ 地域と医療の橋渡しをしよう！

患者さんが病院から一旦離れてしまうと、患者さんも病院へ行きづらくなることがありますし、医療側からのアプローチも出来にくくなります。地域の薬局だからこそ、そのような人に接した場合は薬剤師からの声かけにより、再度医療へつなげる橋渡しができると思います。



✓ 地域の人々の健康を守るのが私たちの役目です！



薬剤師は日々勉強！患者さんに質問されると、それに答えるために勉強することになり、スキルアップの相乗効果が得られます！

✓ 患者さんに選ばれる薬剤師になろう！

薬剤師ですが、肝炎に関する研修を受けているので、何でもご相談くださいねと伝えることで、信頼関係の構築につながり、患者さんに話を聞いてもらえるきっかけになります。患者さんの役に立つことができると、自分自身のモチベーションにもつながります！患者さんから「この薬局が詳しいよと聞いて来た」と聞いたときは嬉しかったです。



患者さんと話を弾ませるヒント

- 最近では脂肪性肝疾患について興味を持っている人が増えています。
- 患者さんが興味を持っていることから話を始めるとコミュニケーションがとりやすいです。
- 体組成計を薬局に設置しておくことで、内臓脂肪の数値などから脂肪性肝疾患の話がしやすくなります。